

1 単元名 登場人物の心情をとらえよう 「大造じいさんとガン」(光村図書)

2 目標

○登場人物の相互関係や描写に関心をもち、心情や場面をとらえようとする。(国語への関心・意欲・態度)

○登場人物の相互関係をとらえ、心情が暗示的に表現された描写に気付き、評価し、自分の考えをまとめることができる。

(読むこと)

○文中の表現や言葉の使い方について、適切であるかどうかを考えることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・登場人物の相互関係に関心をもち、心情や場面をとらえようとする。	・登場人物の相互関係をとらえている。 ・登場人物の心情を暗示的に表現された描写からとらえている。 ・暗示的に表現している描写を自分の表現に生かしている。	・文中の表現や言葉の使い方にについて、適切であるかどうかを考えている。

4 指導と評価の計画 (8時間扱い)

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準
一	1	<p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「大造じいさんとガン」のあらすじをつかもう。 </div> <p>2 範読を聞く。</p> <p>3 挿し絵を見ながら、物語の流れをつかむ。</p> <p>4 3つのしかけと、その前後の「大造じいさん」の心情について簡単にまとめる。</p>	<p>○最後に5年1組の「大造じいさんとガン」を作成することを知らせ、見通しがもてるようにする。</p> <p>○「心情」の意味について説明する。</p> <p>○教師が範読することで、登場人物の心情や場面について大まかに理解できるようにする。</p> <p>○挿し絵を9枚用意し、提示しながら、物語の流れをつかめるようにする。</p> <p>○今後の学習活動では押さえられないしかけの前後の心情を教師主導でまとめる。次第に残雪をとらえようとしていく心情が高まっていくことが押さえられるようにする。</p>	<p>ア 教材文に関心をもち、登場人物の心情をとらえようとしている。(観察・発表)</p>
二	1	<p>「大造じいさん」の心情がわかるところに線を引いて、さし絵と比べよう。</p> <p>1 1・2の場面のワークシートの本文を通読する。</p> <p>2 ワークシートに「大造じいさん」の心情がわかるところに線を引く。</p> <p>3 挿し絵は本文のどの描写を表しているかを考える。</p>	<p>○3枚の挿し絵とその場面の本文を入れたワークシートを用意し、直接的な描写だけでなく、暗示的な描写も心情を表していることを理解するようにする。</p> <p>○挿し絵は本文の描写を表していることが理解できるようになるため、線を引いた描写と挿し絵の部分を線で結び、次時のつながりがもてるようになる。</p> <p>○情景描写に線が引けない児童が多いことが予想されるので、児童からの発表があっても全体で考えるようになる。</p> <p>○情景を「美しく」「すがすがしく」感じている理由や、その情景を見ている人物を考えることで、情景描写からも心情を推し量れることが理解できるようになる。</p> <p>○情景描写が心情を表していることについては、場合によっては具体例を出して説明し、児童に理解できるようにする。</p>	<p>エ 登場人物の心情を暗示的に表現された描写からとらえている。(ワークシート)</p>
	2・3	<p>本文とさし絵を比べて、ちがっている部分を見つけよう。</p> <p>1 3の場面のワークシートの本文を通読する。</p> <p>2 ワークシートに「大造じいさん」の心情がわかるところに鉛筆で線を引く。</p> <p>3 3の場面を本文と挿し絵との比べ読みを行い、挿し絵の中にある、本文とは異なる部分を探す。 (個人→グループ)</p>	<p>○本文に書かれている描写とは、異なった部分が数か所ある挿し絵5枚を用意する。その挿し絵と正しく描写された文章を入れたワークシートを用意する。</p> <p>○個人で考えたところを鉛筆、グループで話し合ったところを赤鉛筆で記入するようにする。</p>	<p>エ 登場人物の心情を暗示的に表現された描写からとらえている。(ワークシート)</p>

		<p>① つかまえたガンをおとりにしようと考えている絵 ・「今年はひとつ、これをつかってみるかな。」 ・「うまくいくぞ。」 ・青くすんだ空を見上げながら、<u>にっこり</u>しました。</p> <p>② 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来た絵 ・「さあ、いよいよ戦闘開始だ」 ・東の空が<u>真っ赤に燃えて</u> ・むねは、わくわくしてきました。 ・しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待ちました。 ・冷え冷えするじゅう身をぎゅっとにぎりしめました。 ・じいさんは、目を開きました。 ・「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」 ・ぐちびるを二、三回静かにぬらしました。</p> <p>③ ハヤブサがおとりのガンをおそっている絵 ・白い羽毛が<u>あかつきの空</u>に光って散りました。 ・大造じいさんは、<u>ぐっと</u>じゅうをかたに当て、残雪をねらいました。</p> <p>④ 残雪がハヤブサと戦っている絵 ・再びじゅうを下ろしてしまいました。 ・羽が、白い花弁のように<u>すんだ空</u>に飛び散りました。</p> <p>⑤ 残雪がじいさんを正面からにらみつけた絵 ・じいさんを正面からにらみつけました。 ・じたばたさわぎませんでした。 ・強く心を打たれて、ただの鳥に対するような気がませんでした。</p>	<p>※下線部は本文の描写とは異なるった挿し絵の部分 ※ゴシック体は暗示的な情景描写</p>	
		<p>4 挿し絵の異なる部分をカードに記入し、黒板にはり、確認する。 (グループ→全体)</p>	<p>○挿し絵の異なる部分を指摘したカードになるように、最初に例を提示する。 ○カードには、要點がわかれればよいとし、書くことに時間を取らないように配慮する。 ○全体で「異なる部分」を確認するときにはワークシートに青鉛筆で記入するようにし、変容が黒→赤→青で見られるようにする。 ○個人の学習活動中に鉛筆で書いた部分は消さないように指示する。</p>	
4 未時	えがかかれている空の色を考えよう。	<p>1 3の場面②の挿し絵の空の色を評価する。 2 本文の描写の妥当性を確認する。 3 3の場面①③④の空の色が心情を表しているか確認する。 4 3の場面①から⑤にかけて、「大造じいさん」の心情が変化していった様子をまとめる。</p>	<p>○3の場面で使用した5枚の本文の描写とは異なる挿絵が入ったワークシートを用意する。 ○本文とは異なる情景(色)を評価するようにする。 ○本文中の描写の妥当性が、作者と異なる場合、作者はなぜその描写を使ったのか考えることで、暗示的な描写の意味を理解できるようにする。 ○時間や児童の反応を見ながら、「赤」と「真っ赤」の違いについて取り上げる。 ○心情が変化するにつれ、空の色が変わり、ついには、残雪に対して強く心を打たれていたことを理解できるようになる。 ○⑤は、全員で試写して終わるようにする。</p>	<p>エ 登場人物の心情が暗示的に表現された描写を評価している。 (ワークシート) オ 文中の表現や言葉の使い方について、適切であるかどうかを考えている。 (観察・発表)</p>
5	「大造じいさん」の心情がわかるところに線を引いて、さし絵と比べよう。	<p>1 4の場面の挿し絵と本文とを比較し、情景描写も大造じいさんの心情を表していくことを確かめる。</p>	<p>○挿し絵とその場面の本文を入れたワークシートを用意する。 ○これまでの学習の確認を4の場面で行い、心情が表れる暗示的な表現について理解を深められるようにする。</p>	<p>エ 登場人物の心情を暗示的に表現された描写からとらえている。 (ワークシート)</p>
	<p>① 残雪が飛び去っていく絵 ・晴れた春の朝 ・おりのふたをいっぱいに開けてやりました。 ・らんまんとさいたスマモの花が、その羽にふれて、 雪のように滑らかに、はらはらと散りました。 ・……堂々と戦おうじゃないか。」 ・晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。 ・いつまでも、いつまでも、見守っていました。</p>	<p>※下線部は挿し絵に表された部分 ※ゴシック体は暗示的な情景描写</p>		
	2 「おり」と「小屋」を比較し、大造じいさんと残雪との相互関係からそれぞれの心情を考える。	<p>○「おり」と「小屋」を比較することで、おとりのガンと残雪との違いを理解させることで、大造じいさんが残雪に対してどういう心情を抱いていたのかつかめるようになる。</p>	<p>エ 登場人物の相互関係をとらえている。 (ワークシート)</p>	
三	<p>「大造じいさん」心情がわかる表現を書きたしてみよう。</p> <p>1 暗示的に表現された描写を確認する。 2 簡単な暗示的な描写の作り方を知る。 3 暗示的に表現された描写を「大造じいさんとガン」の中に書く。</p>	<p>○本文(全文)が載っているワークシートを用意する。</p> <p>○大造じいさんの心情を考え、物語の中に、暗示性の強い情景描写を考え、書き入れさせる。 ○ヒントカードを用意し、「いつもより……に見えました。」など、空の色や秋の風景などを考えて書くように助言する。 ○机間巡回し、早く進んでいる児童には、いくつでも書き入れてよいことを、なかなか進まない児童には、場面を指定し、ヒントカードをもとに進めるよう助言する。</p>	<p>エ 暗示的に表現している描写を自分の表現に生かしている。 (ワークシート)</p>	
	<p>みんなで作った「大造じいさんとガン」を読もう。</p> <p>1 クラス全員で創作した「大造じいさんとガン」を読む。 2 読んだ感想を書く。</p>	<p>○前時に創作した暗示的な描写が入った「大造じいさんとガン」を配付し、それぞれ読むようにする。 ○情景描写でも心情を表すことがわかるかどうかを書くようになる。</p>	<p>ア 学級で創作した作品に関心をもち、暗示的に表現された描写をから登場人物の心情をとらえようとしている。 (観察・発表)</p>	

5 本時の学習

(1) 目標

3の場面において、登場人物の心情が暗示的に表現された描写を評価しながら、心情をとらえることができる。

(2) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点と評価（◎個への対応）
<p>1 本時の学習課題と学習の進め方を確認する。</p> <p>えがかかれている空の色を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返り、本文とは異なった部分がある挿し絵を基に、本時は挿し絵の描写を評価し、描写の意味を考えいくことを確認する。 ○ 前時の挿し絵5枚を黒板に掲示しておく。 ○ 挿し絵の部分を評価するという活動に対して、児童が関心をもてるよう発問を工夫する。 ○ 前時と同じ挿し絵を利用したワークシートを用意する。 ○ 最初に自分の考えを明確もつようにする。 ○ 心情が描写されていることを、本文を根拠として、考えたときに、「赤」が適当かどうか、知識や経験から評価するようになる。 ○ 机間指導の際には、なぜ、そう思うのかを尋ねることで、自分の知識や経験と結びつけた根拠を書くようする。 ○ 早く解決できた児童には、「赤」と「真っ赤」を比較するよう助言する。 ○ 学習が進まない児童には、赤色がもつイメージと青色がもつイメージを自分の知識や経験の中から比較するように助言する。 ○ 「赤」でなくてもよいという考えが出た場合は、「真っ赤」と表現されていることの意味を考えるよう助言する。 ○ 学習活動2(1)で「赤」でなくてはならないとまとめたときには、「赤（真っ赤）」は、「大造じいさん」のどんな心情を表しているのか考えるようする。 ○ 板書されたことを記録する場合は、赤鉛筆で引かせ、個々の理解の程度がみとれるようする。
<p>2 空の色について評価し、意味を考える。</p> <p>(1) 挿し絵の空の色では、いけないかを考える。</p> <p>・「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来た」描写が青い空になっている挿し絵</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ○ 大造じいさんの心情を「真っ赤に燃えて」という暗示的に表現された描写からとらえることができる。（ワークシート・発表・観察）
<p>(2) なぜ「真っ赤」なのかを考える。</p> <p>・空の色は大造じいさんの心情を表した色だから。それで、気持ちが燃えている大造じいさんの目には朝の空が真っ赤に見えている。</p> <p>(3) 大造じいさんの心情と他の場面の空の色を比べてみる。</p> <p>・つかまえたガンをおとりに使おうとしている絵</p> <p>・ハヤブサがおとりのガンを襲っている絵</p> <p>・残雪がハヤブサと戦っている絵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの場面での大造じいさんの心情を押さえることで、挿し絵の空の色を評価するようする。 ○ 空の色が大造じいさんの心情を表していることを大造じいさんの心情の変化と空の色の変化を対比させてとらえるようする。 ○ 色を評価するワークシートに、挿し絵の空の色ではいけない理由を書くことで、暗示的に表現された描写からも登場人物の心情がつかめることを理解できるようする。 ○ 自分で考えた考えは鉛筆（黒）で、他者の意見等を聞いてから考えたものを赤鉛筆で記入するようにし、理解の程度を見取る。 ○ 大造じいさんがおとりのガンを使ってから残雪を捕獲するまでの心情の変化を空の色と関連させて押さえ、心情が表れている部分を試写し、次時へのつながっていくようする。 ○ 情景の描写から心情がとらえられることを再度確認する。 ○ 次時では、4の場面から、大造じいさんの心情がわかる描写をとらえることを確認する。
<p>(4) 大造じいさんが残雪を捕獲するときの心情を押さえる。</p> <p>3 学習の振り返りとまとめをする。</p> <p>4 次時の学習課題を知る。</p>	



学校教育OK

このマークはこのPDFファイルの挿し絵
及びワークシートに付けられたものです。













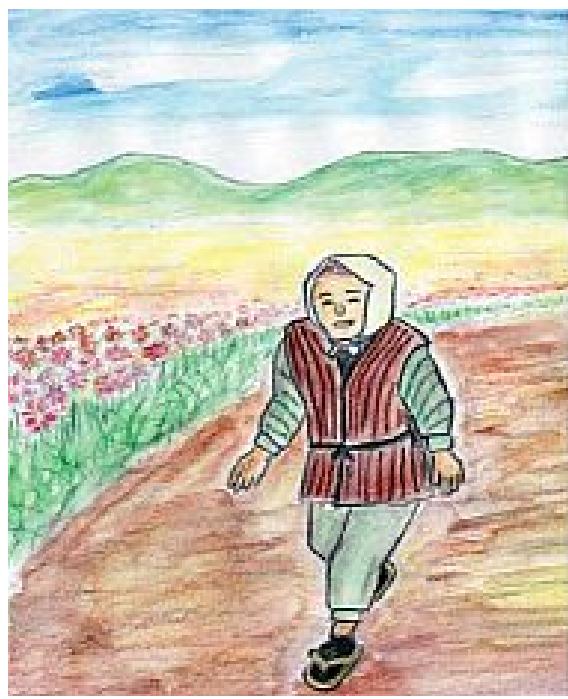








「大造じいさん」と「ガン」の心情がわかるところに線を引いて、さし絵と比べよう。



そこで、残雪がやつて来たと知ると、大造じいさんは、今年こそはと、かねて考えておいた特別な方法に取りかかりました。

それは、いつもガンのえをあさる辺り一面にくいを打ちこんで、タニシをつけたウナギつりばりを、たたみ糸で結び付けておくことでした。じいさんは、一晩じゅうかかつて、たくさんのウナギつりばりをしかけておきました。今度は、なんだかうまくいきそうな気がしてなりませんでした。

翌日^{よの}の昼近く、じいさんはむねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。昨晩つりばりをしかけておいた辺りに、何かバタバタしているものが見えました。

「しめたぞ。」

じいさんはつぶやきながら、夢中でかけつけました。

「ほほう、これはすばらしい。」

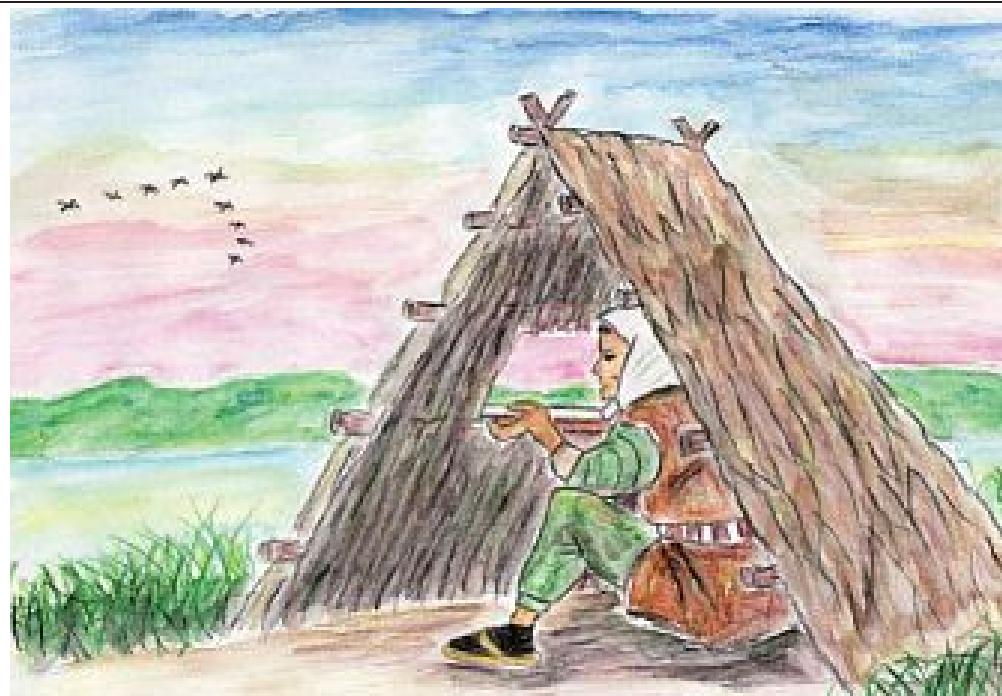
じいさんは、思わず子どものように声を上げて喜びました。一羽だけであったが、生きているガンがうまく手に入ったので、じいさんはうれしく思いました。

さかんにばたついたとみえて、辺り一面に羽が飛び散っていました。

ガンの群れは、これに危険を感じてえさ場を変えたらしく、付近には一羽も見えませんでした。しかし、大造じいさんは、たかが鳥のことだ、一晩たてば、またわすれてやつて来るにちがいないと考えて、昨日よりも、もつとたくさんのつりばりをばらまいておきました。

その翌日、昨日と同じ時刻^{ごく}に、大造じいさんは出かけていきました。

秋の日が、美しくかがやいていました。



大造じいさんは、夏のうちから心がけて、タニシを五俵ばかり集めておきました。そして、それを、ガンの好みそうな場所にばらまいておきました。どんなあんばいだったかなと、その夜行つてみると、案の定、そこに集まつて、さかんに食べた形跡がありました。

その翌日も、同じ場所に、うんとこさとまいておきました。その翌日も、同じようなことをしました。ガンの群れは、思わぬごちそうが四、五日も続いたので、ぬま地のうちでも、そこが、いちばん気に入りの場所となつたようありました。

大造じいさんは、うまくいったので、会心のえみをもらしました。

そこで、夜の間に、えさ場より少しほなれた所に小さな小屋を作つて、その中にもぐりこみました。そして、ねぐらをぬけ出して、このえさ場にやつて来るガンの群れを待つてゐるのでした。

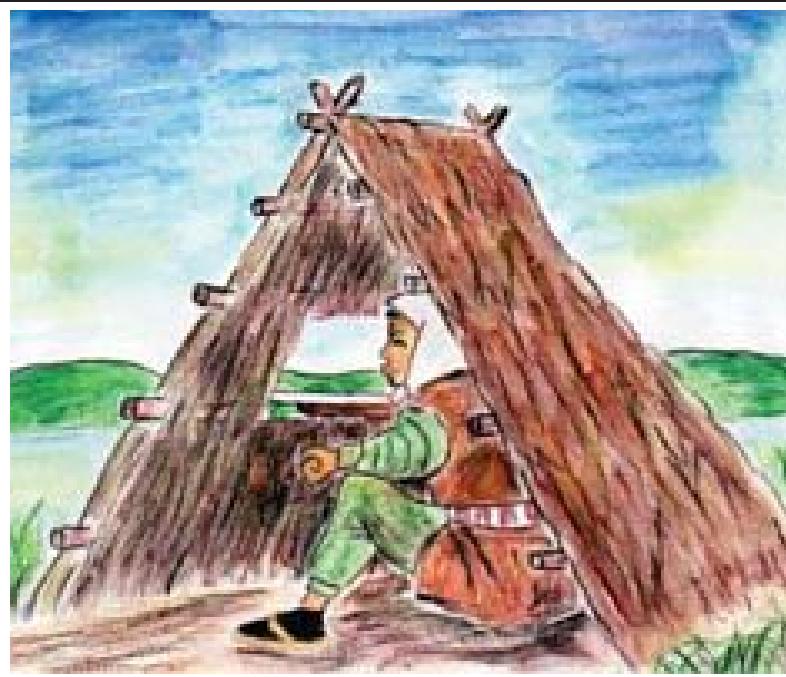
あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。

ぬま地にやつて来るガンのすがたが、かなたの空に黒く点々と見えだしました。先頭に来るのが、残雪にちがいあります。

その群れは、ぐんぐんやつて来ます。

「しめたぞ。もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にも見せてくれるぞ。」りょうじゅうをぐつとにぎりしめた大造じいさんは、ほおがびりびりするほど引きしまるのでした。

本文とさし絵を比べて、ちがっている部分を見つけよう。



大造じいさんは、ガンがどんぶりからえを食べているのを、じつと見つめながら、「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」と、独り言を言いました。

じいさんは、長年の経験で、ガンは、いちばん最初に飛び立つものの後について飛ぶ、ということを知っていたので、このガンを手に入れたときから、ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと、考えていました。さて、いよいよ残雪の一群が今年もやつて來たと聞いて、大造じいさんは、ぬま地へ出かけていきました。

ガンたちは、昨年じいさんが小屋がけした所から、たまのとどくきよりの三倍もはなれている地点を、えさ場にしていました。そこは、夏の出水^{しうす}で大きな水たまりができる、ガンのえが十分にあるらしかったのです。

「うまくいくぞ。」

大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、につこりとしました。

その夜のうちに、飼い慣らしたガンを例のえさ場に放ち、昨年建てた小屋の中にもぐりこんで、ガンの群れを待つことにしました。

「さあ、いよいよ戦闘^{とう}開始だ。」

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。

残雪は、いつものように群れの先頭に立つて、美しい朝の空を、真一文字に横切つてやつて來ました。やがて、えさ場に下りると、グワア、グワアというやかましい声で鳴き始めました。大造じいさんのむねは、わくわくしてきました。しばらく目をつぶつて、心の落ち着くのを待ちました。そして、冷え冷えするじゅう身をぎゅっとぎりしました。

じいさんは目を開きました。

「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」

くちびるを二、三回静かにぬらしました。そして、あのおとりを飛び立たせるために口笛をふこうと、くちびるをとんがらせました。



一羽、飛びおくれたのがいます。

大造じいさんのおとりのガンです。長い間飼い慣らされていていたので、野鳥としての本能がぶつっていたのでした。ハヤブサは、その一羽を見のがしませんでした。

じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと口笛をふきました。

こんな命がけの場合でも、飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、ガンは、こっちに方向を変えました。ハヤブサは、その道をさえぎって、パーンと一けりけりました。

ぱっと、白い羽毛があかつきの空に光つて散りました。ガンの体はななめにかたむきました。

もう一けりと、ハヤブサがこうげきの姿勢をとったとき、さつと、大きなかげが空を横切りました。残雪です。

大造じいさんは、ぐつとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。

が、なんと思つたか、再びじゅうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。

不意を打たれて、さすがのハヤブサも、空中でふらふらとよろめきました。が、ハヤブサも、さるものです。さつと体勢を整えると、残雪のむな元に飛びこみました。
ぱつ
ぱつ

羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散りました。



残雪は、むねの辺りをくれないにそめて、ぐつたりとしていました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐつと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。

それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もうじたばたさわぎませんでした。それは、^{最期}の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。

どこがどうちがう？

どこがどうちがう？

えがかれている空の色を考えよう。

			
すんだ空	あかつきの空	真っ赤に燃えて	青くすんだ空
なんでかな？	なんでかな？	（ ）青でもよい。○か×か。 理由	なんでかな？

「大造じいさんとガン」の心情がわかるところに線を引いて、さし絵と比べよう。

ある晴れた春の朝でした。

じいさんは、おりのふたをいっぱいに開けてやりました。

残雪は、あの長い首をかたむけて、とつぜんに広がった世界におどろいたようありました。が、バシツ。

快い羽音一番、一直線に空へ飛び上りました。

らんまんとさいたスモモの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。

「おうい、ガンの英雄よ。ゆうおまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきようなやり方でやつつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやつて来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」

大造じいさんは、花の下に立つて、こう大きな声でガンに呼びかけました。そして、残雪が北へ北へと飛び去つていくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつまでも、見守つていました。



「



」



大造じいさんは、残雪を

として見ている。